

平成28年産米の作柄反省と次年度対策

平成28年は、かつてない高収量・高品質を達成した年でした。移植後の好天や8月の高温・多日照など、気象要因に恵まれたこととともに、ここ数年取り組んできた適期中干し(移植後30~35日)や、後期栄養の確保などの成果が見られます。次年度以降も、気象をコントロールすることはできません。今年の稲作を振り返り、基本技術の徹底で高品質・高収量をめざしましょう！

[表]作況指数及び1等級比率(加工用米除く)

1等級比率 (主食用米)	品種全体 %	コシヒカリ		作況指数 (下越北)
		こしいぶき	こしいぶき	
JA北蒲みなみ 水原	89.6	94.1	85.5	108
安田	87.1	89.5	92.0	
京ヶ瀬	88.8	92.7	78.6	
JAささかみ	91.3	92.4	90.7	

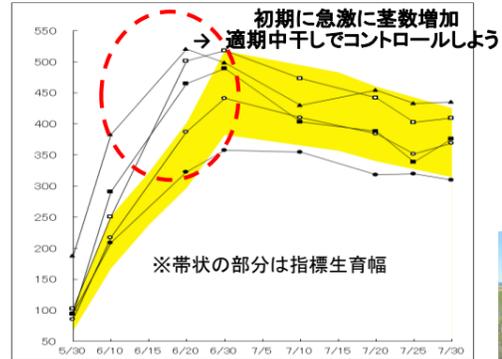
(1) 「適期中干し」の実践まであと一歩！ 毎年のイネの生育に合わせた中干しを！

- 平成26年から、JA北蒲みなみ、JAささかみ、新発田農業普及指導センターが連携して、「中干し適期予測のための茎数調査」を行っています。
- 田植え後30日となる6月初旬に、市内40地点のイネの茎数を調査し、「適期中干し情報」としてお知らせしています。
- 取組の結果、毎年、中干しの盛期は前進していますが、その年のイネの生育にあった「適期中干し」の達成にはあと一歩の努力が必要です。

[表] 6月上旬の茎数調査結果と中干し時期(阿賀野市内40点)

地区	中干し時期				
	適期※ (H28)	盛期※ (H28)	同左移植 後日数	盛期※ (H27)	盛期※ (H26)
水原	6/2	6/12	39	6/15	6/14
京ヶ瀬	6/6	6/11	39	6/16	6/15
安田	6/8	6/12	38	6/13	6/15
笹神	6/8	6/12	39	6/13	6/15

※適期・・・m当たり茎数が270本に達すると予想される時期
※盛期・・・地域の50%のほ場で中干しが実施された時期



[図]茎数の推移(阿賀野市内・生育調査ほ5点)

[取組3年目！中干し茎数調査]
コシヒカリを中心に、各地区10点を調査。調査結果は、迅速にメールマガジン等で農家の皆さんにお知らせしています(写真:JA北蒲みなみ営農企画課)

(2) 「米づくり、飯になるまで水加減」最後まであきらめない水管理を心がけよう！

- 今年稲作期間中に、5つの台風が新潟県に接近しました。
- 特に「台風10号」「台風12号」の接近前後には、フェーンによる高温で乾燥した強風が発生しています。
- 指導機関では、台風の接近時に、迅速な水管理を呼びかける情報発信を行っています。情報を活かし、自然災害に対して「できることはすべてやる」水管理を徹底しましょう。

[表] 登熟後半の水管理状況(栽培履歴調査より)

	平均落水日	同左 出穂後 日数	落水日の幅	9/1以降落水 実施率 %
H27	8/26	20	8/15~9/8	16.9
H28	8/23	20	8/10~9/15	26.8

- ① 過度な中干しに注意
・中干しは「小ヒビ」にとどめます。過度な中干しは葉色の急速な低下、雑草の多発などを招きます。
- ② 高温時はこまめな水の入れ替え
・水の溜めっぱなしは根を痛めます。地域の水利事情に合わせて更新しましょう。
- ③ 出穂後25日間の湛水管理、収穫5日前までの土壌水分維持
・カドミウム対策のためにも湛水管理は必須です。
・地耐力は中干し・溝切りで確保し、早期落水は避けましょう。

[表]新潟県に接近した台風(平成28年 稲作期間中)

	8/16	8/30	9/5	9/8	9/18
台風名	台風7号	台風10号	台風12号	台風13号	台風16号



水稻生育速報メールマガジン

左のQRコードを読み、メール送信で登録！

【docomo用】【au・softbank用】

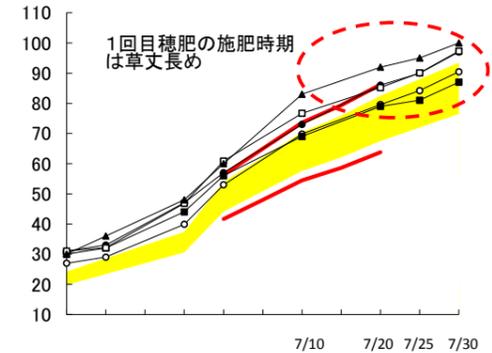
(3) 規定量を施用後も油断は禁物！出穂直前までイネをよく見た穂肥対応を！

- 今年、コシヒカリ1回目施用時期(7月20日頃)には、イネの草丈が長く、葉色が濃いため、穂肥は「遅め・控えめ」対応をすすめましたが、梅雨明け後は一転して葉色が急激にさめてきたため、追加穂肥の施用をすすめました。
- ① コシヒカリ1回目穂肥施用時期(慣行・分施)
「草丈長く、穂肥は「遅め・控えめ」を推奨」

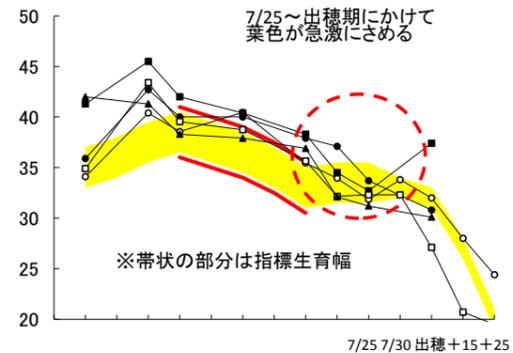


梅雨明け後は生育が一転！

- ② 出穂期にかけて葉色が急低下。一発基肥への追肥や3回目穂肥(出穂6~3日前)の施用を推奨
- ・2回目の穂肥施用(出穂10日前)が終わった7月25日~8月1日にかけて、葉色が急低下。後期栄養の確保に十分な葉色を維持できないほ場が多く見られたため、追加の穂肥をすすめました。
- ・後期栄養を確保しながら、食味を損なわない(玄米タンパク含量6.5%以下)を両立するための追加穂肥(出穂10日前以降の穂肥)のめやすに従った臨機応変な穂肥対応が求められました。



[図] 慣行栽培の草丈の推移(生育調査ほ5地点)



[図] 慣行栽培の葉色の推移(生育調査ほ5地点)

[表]追加穂肥の施用基準

肥料の種類	追加穂肥判断のめやす	施用時期・量
化学肥料	出穂3日前でSPAD32以下	出穂3日前まで N成分:1.0kg/10a
有機質50%	出穂6日前でSPAD33以下	出穂3日前まで N成分:1.0kg/10a
有機質100%	出穂6日前でSPAD33以下	出穂6~3日前まで N成分:1.0kg/10a

平成22年の品質低下(後期栄養不足)以降、後期栄養と食味を両立する追加穂肥の施用基準が作られました。過去の経験を活かし、きめ細かな穂肥対応を心がけましょう

(4) 胴割粒だけじゃない！刈遅れで整粒歩合が低下。十分な計画のもと適期刈取を徹底！

- 今年コシヒカリの出穂が平年より早まった上に、8月の高温で収穫開始時期も早まりました。
- 9月3半旬以降は降雨日が多くなり、特に大規模経営体で刈り遅れる傾向が見られました。

- ・コシヒカリを出穂後積算気温別に収穫、調整して分析したところ、出穂後積算気温で1,147℃を超えると除青未熟粒の混入率が増加し、整粒歩合が低下する傾向が見られました。

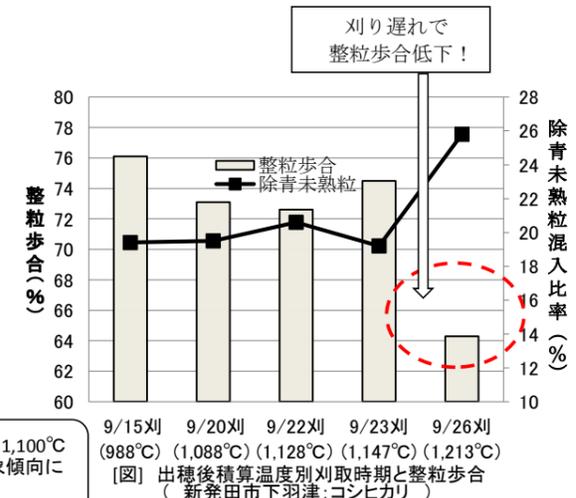
[表]コシヒカリ生育調査ほの出穂日

	移植日	H28出穂日	平年差
水原・下条	5/10	8/4	-3日
安田・籠田	5/12	8/6	-3日

[表]出穂後積算気温の推移(8/4出穂の場合:新発田市下羽津)

月日	9月9日	9月11日	9月16日	9月18日
出穂後日数	37	39	44	46
出穂後積算気温℃	935	980	1,092	1,133

コシヒカリの収穫適期は高温年の場合、出穂後積算気温950℃~1,100℃がめやすです。品種構成の見直しによる作期分散、その年の気象傾向に対応した刈取計画などで、刈り遅れを防ぎましょう。



[図] 出穂後積算温度別刈取時期と整粒歩合(新発田市下羽津:コシヒカリ)